

会社員から自営業へ 野菜との複合経営



豆原 寛一

圃場の様子



桧 2年生



挿しすぎ



実生 桧



実生すぎ

野菜の栽培



レタスの育苗



白ネギの育苗



レタス 11月頃



白ネギ 8月頃

我が家の課題

- 低くなっていく得苗率（コンテナ苗）

 - 杉（挿し木） 80%以上の得苗率

 - 桧（実生） 年々と得苗率が低下している

 - 移植に適した時期に出来ていない？
 - コンテナを何年も使っているから？

- 労務の確保

 - 育苗繁忙期のみに仕事を頼むためパートさんの確保が難しい

- 繁忙期を分散する為に作物を選定している。

 - 土地にあった作物を栽培できているか？



年間スケジュールを12ヶ月に詳細化

野菜品種の選定…育苗の繁忙期と野菜の繁忙期が重ならないこと

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
育苗	← 閑散期 (草取り・予防・追肥等) →							← 繁忙期 (選別・出荷・床替) →				
白ネギ	定植	← 閑散期 (草取り・予防・追肥等) →						← 出荷 月6回 →			定植	
レタス		準備 (育苗・マルチ)		定植	出荷							
その他	田植え	白小豆		稲刈り	収穫							

これからの我が家の展望 作業の分散化

現在 実床に播種 ⇒ 原苗をコンテナに移植

春先の作業・・・短期間に床替え、コンテナ移植と作業が重複する（採穂も有）

ひとり農業にはすごく負担 ⇒ それぞれの適時を逃してしまう

その為コンテナに移植後に枯死が発生して歩留まりの低下を招くことも

充実種子をゲル加工 ⇒ コンテナに直播き



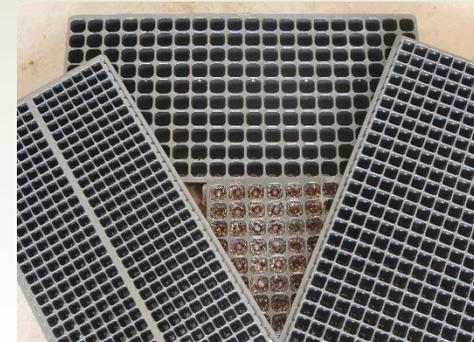
ゲル加工して
乾燥された種子



ゲル状態 8mm/粒
1～3種入り加工可能



は種作業 1粒



406穴 200穴 288穴
セルトレイで試験は種

種子のゲル加工

配布された種子 ⇒ 界面活性剤で充実種子の選別を行う

平成25年度香川県森林センター業務報告第46号 より

選別後、種にゲル加工を施す ⇒ 乾燥保存状態で返却でされる

発根・発芽 ↓ 出来る球体状態に戻す

種子を播種と発芽させる為、水につける（直径約10mm）

その際に発根促進剤を使用することも可能

（3回ほど水を替えながら約18時間でほぼ戻る）

ゲル内で発根 ↓ 発芽状態にさせる

コンテナの中では高い発芽率で栽培ができるはず。

播種作業は専用の播種板で効率化できる

コンテナ苗・育苗の作業の分散化

コンテナへ 直播き	・・・メリット	移植作業がない	⇒	作業が激減する
		移植が無い	⇒	枯死が無くなる
	・・・デメリット	発芽率が低い	⇒	穴あき状態になる 補植が必要になる(補植苗も栽培が必要)
セルトレイに 直播き	・・・メリット	発芽率が低い	⇒	歩留まりに影響しない
		根鉢のまま移植	⇒	ストレスレスになる
	・・・デメリット	移植が必要	⇒	作業回数が増える

改善策として、ゲル加工の際にゲル内の種を3粒に増やす

そして、コンテナへ直播き ⇒ 間引きを行う方法もある

または、ゲル内での発根・発芽を確認 ⇒ 播種も可能である

(特注播種板での作業も可能)

育苗と野菜の栽培

コンテナ苗の直播き・秋移植 栽培技術の確立



作業の分散化（春先の作業の軽減）



裸苗もしっかりと生産していく

今後、高齢化していく生産者の中で、春先の有効な時間を多く作り

裸苗の安定供給の責任も果たせる経営を目指す。

繁忙期には育苗に専念し、野菜はある程度の出荷作業のみの対応

裸苗の管理期間に、播種から収穫まで終わる野菜の並行した栽培